

令和3  
年度



# SUSAP デンマーク & フィリピンプログラム

2021年2月22日~3月19日

## 目次

プログラム概要 .....	2
【メンバー紹介】 .....	2
【フィリピンの概要・文化】 .....	5
【フィリピン PBL】 .....	6
【デンマーク概要・文化】 .....	7
【デンマーク PBL の概要】 .....	8
○各メンバーの報告書	
オンライン研修を終えて .....	9
視野をひろげるためには .....	10
英語ショック .....	11
「研修を通して学んだこと」 .....	12
「プログラムを通して得たこと」 .....	14
研修を通して得たこと .....	16
研修からの学び .....	18
オンライン留学を終えて .....	20
研修を通して学んだこと .....	21
コロナと英語プログラムについて .....	23
研修を通じて学んだこと .....	24
研修を通して感じたこと .....	26
プログラムの感想 .....	27
「幸せとは」に対する答え .....	28

## プログラム概要

### 【期間】

2021年 1月13日～ 3月22日 (69日間)

事前研修：1月13日～ 2月17日

オンライン研修：2月22日～ 3月19日

事後研修：3月22日



### 【オンライン留学先】

GG社とJTB社が共同で提供している、英語＋グローバルスキルを有機的に組み合わせた「クラスライブ」プログラムに参加し、海外留学の体験をオンライン上で経験した。

### 【内容】

本研修では、クラスライブのマンツーマンとグループレッスンを受講し英語力の向上を図りつつ、デンマークとフィリピンの受講生へのインタビューを通して幸せについての考え方について学んだ。参加者はデンマークとフィリピンの社会や文化について知識を獲得しつつ、幸せについての議論を通じて、異文化理解や異文化の他者との協働に必要な資質や態度の向上をはかることを目的とした。

### 【Class Live の内容】

Class Live での授業はグループレッスンとマンツーマンレッスンに分かれている。グループレッスンではエントランステストで振り分けられたレベルのレッスンを受講する。マンツーマンレッスンでは個人のオンラインテキストを使用し、学習→演習を單元ごとに行っていく。

## 【メンバー紹介】

### ○グループ A

田中友梨香 経済学部 3年  
英語力の向上を目指して参加した。

石津七海 理工学部 1年  
色々な考え方、価値観を知りたかった。

野田真己 農学部 2年  
これからの英語を勉強するモチベーション  
になればと。

### ○グループ B

宮石康大 理工学部 3年  
実践的な学習をしたかった

東優花 経済学部経済学科 2年  
コロナ禍でも留学をするという目標を諦め  
きれなかった事と今自分にできることをし  
たかった

平川紗妃 農学部 1年  
自分の視野をもっと広げたかったから



### ○グループ C

古川莉奈 経済学部 2年  
他国と日本との考え方や価値観の違いを  
学びたい。

工藤依沙 芸術地域デザイン学部 1年  
英語のスピーキング力を上げるために参  
加した。

山香美優 農学部 2年  
英語力を向上させるため、幸せについ  
ての色々な考え方を知りたくて参加した。

山西翔子 農学部 2年  
英語力の向上とともに他の国の文化や考  
え方を知りたかった。

### ○グループ D

小田瑞穂 農学部 2年  
国際的な人材を目指して、英語力を向上  
し、様々な文化の価値観を学ぶため

光武早紀 農学部 2年  
英語力と、自分自身の考えを深める力を向  
上させるため。

高桑正誠 芸術地域デザイン学部 2年  
自身の実践的なスピーキング能力を身につ  
け、デンマーク、フィリピンの同年代の学  
生と交流し、自身の価値観をひろめるため

日南瑶 農学部 1年  
英会話力を高めると共に交流を通じて幸  
せに対する考えを深めたいと思ったから



## 【フィリピンの概要・文化】



### 1 面積

299,404 平方キロメートル（日本の約 8 割）。7,109 の島々がある。

### 2 人口

約 1 億 98 万人（2015 年フィリピン国勢調査）

### 3 首都

マニラ（首都圏人口約 1,288 万人）（2015 年フィリピン国勢調査）

### 4 民族

マレー系が主体。ほかに中国系、スペイン系及び少数民族がいる。

### 5 言語

国語はフィリピノ語、公用語はフィリピノ語及び英語。80 前後の言語がある。

### 6 宗教

ASEAN 唯一のキリスト教国。国民の 83% がカトリック、その他のキリスト教が 10%。

イスラム教は 5%（ミンダナオではイスラム教徒が人口の 2 割以上）。

### 7 平均寿命

男性 66.2 歳、女性 72.6 歳（WHO、2018）

### 8 識字率

98.2%（世界銀行 2015 年）

日本との関係：関係良好。輸出入共に盛んである。また、日本は最大の投資国でもある。特に ODA の援助額は最も大きい。貿易や人的交流が盛んに行われてきた上に、地下鉄や高速鉄道建設などのインフラ投資も増加している。

国民性は『フィリピーノホスピタリィ』と呼ばれる言葉が存在しているほど、親切で陽気。そして楽観的。外国人に対しても親切で、他者を受け入れる精神の根底には、多民族であることも大きく起因しているだろう。



## 【フィリピン PBL】

### ○全体的な流れ

一日目 フィリピンの概要・文化

二日目 学生へのインタビュー

三日目 フィードバック

### ○詳細

インタビューセッションは Zoom で行われ、それぞれの国の代表がお互いの国の紹介をすることから始まった。その後グループに分かれて、フィリピンの学生に幸せについていろいろな質問をした。異なる価値観に出会い、幸せの概念について深く考えさせられる時間となった。フィードバックではインタビューの内容を整理し、フィリピンと日本の幸せについての意見の違いや共通点などについて考察した。



## 【デンマーク概要・文化】

### ○基本情報

- ・面積：約 4.3 万平方キロメートル（九州とほぼ同じ）
- ・人口：約 581 万人（兵庫県とほぼ同じ）
- ・首都：コペンハーゲン
- ・言語：デンマーク語（ほとんどの人が英語を理解する）
- ・宗教：福音ルーテル派

### ○政治情勢、福祉制度、経済情勢

デンマークの政治体制は立憲君主制であり、元首はマルグレーテ 2 世女王である。日本に次いで 2 番目に古い君主国である。行政権を持つのは首相メッセ・フレデリクセンであり、医療、社会保険の充実、環境政策、難民政策などを優先課題としている。また、デンマークは高福祉高負担国家であるため消費税 25%、所得税 50%前後となっている。そのため福祉制度が充実しており、養育費、医療費負担、出産費用は無料となっている。幼児教育から大学まで教育費は無償であり、GDP 比における教育支出は世界 1 位を誇る。大学進学率も 70.5%と非常に高い。一人当たり GDP 比は世界 10 位、経済成長率は 1.2%となっており、主要産業として農業、観光、エネルギー産業が挙げられる。

### ○日本との関係

日本とデンマークの関係は 1867 年の江戸幕府による日デンマーク修好通商条約の締結に始まり、現存する長い歴史を持つ王室、皇室として伝統的な友好関係が続いている。2017 年には外交関係樹立 150 周年を迎え、様々な周年行事が催された。外交関係においても両国関係の強化がなされており、気候変動分野での協力、コロナ禍における一層のデジタル化の推進、戦略的パートナーシップの改訂等が進んでいる。

### ○文化

デンマークはレゴの発祥地としても知られているように、建築や家具等のデザインが世界中で親しまれている。人々は、暮らしの空間や家族と過ごす時間を重視しており、夕食を家族と楽しむなど家族団らん（ヒュッケ・タイム）を大切にしている。デンマーク人の 75%が移動手段として日常的に自転車を利用しており、健康を意識している人が多い。また、デンマークの人々は「幸せ」を意味する言葉である LYKKE(リュッケ)に関わる 6 つの要素（人々の繋がり、お金、健康、自由、信頼、やさしさ）を大切にしており、生活の質を重要視している。



## 【デンマーク PBL の概要】

### ○全体的な流れ

一日目 デンマークの概要・文化・  
LYKKE(リュッケ)についての学習

二日目 デンマークの学生へのインタビュー

三日目 各班でインタビューの共有やフィードバック

### ○詳細

一日目は主に、デンマークで「幸せ」を意味する「LYKKE(リュッケ)」という言葉を通して、幸せを考えるための6つの重要な要素「人々の繋がり、お金、健康、自由、信頼、やさしさ」をデンマーク人の先生から教わった。

二日目は、それぞれのグループの自己紹介から始まり、デンマークの学生の方々に、幸せに関する質問を行った。デンマークの学生は非常に流暢であったので、聞き取りに難があった場面もあったが、端的に意見を述べてくれたおかげで、分かりやすく。非常に有意義な時間となった。

三日目は、デンマーク PBL の全体的なフィードバックをおこなった。先生を中心に、



オンライン研修を終えて

経済学部経済学科 3年 田中友梨香

まず、この研修のオンライン英会話を通して、英語を話すことに少しだけ慣れることができた。マンツーマンレッスンでは、先生が自分のレベルに合わせて英語で話してくださったり、教科書の内容だけでなく私たちがたくさん話することができるように質問してくださったりと、楽しくレッスンを受けることができた。グループレッスンでは、ほかの生徒とも交流ができるため、モチベーションの維持や英語学習への意欲を高めることができた。佐賀大学生だけでなく、ほかの大学の学生や年齢の全く異なる方や外国の方など、普段一緒に勉強しないような人たちと勉強できたことも、とても良かったと思う。毎日3時間くらい英語を話していたので、ある程度英語を話すことには慣れたが、やはり自分の言いたいことを英語で話すには、時間がかかるし、語彙力や文法力の乏しさを痛感した。1か月の英会話レッスンは、あっという間に終わってしまったので、これからも英語学習を続けて、英語力を伸ばしていきたい。特にスピーキングは、話す練習が大切なので、オンライン英会話を続けるのもよいと思った。

次に、課題解決型研修では、デンマークとフィリピンの学生へのインタビュー、海外の先生による講義や、学生同士のディスカッションなどを通して、幸せとは何かについて考えた。このような答えのない問いに対して、ほかの日本人学生の

意見や、海外の学生の意見を聞くことができて、非常に興味深かった。デンマークとフィリピンは日本よりも幸福度ランキングが高い。その背景には、経済レベル、社会システム、国民性など様々な違いがあるが、デンマークやフィリピンの学生とディスカッションしたことで、幸せになるためのヒントや、考え方を広げることができた。幸せになるためには、衣食住を整えるための最低限のお金は必要であるが、人間として共通していることは、家族や友達、周りの人を大切することだと思った。なぜなら、人は成長する過程でたくさんの人に出会い、支えあいながら生きていくからだ。また考え方をポジティブにすることも、重要だと思った。将来への希望を持ち、現実をポジティブにとらえることで、幸せを感じる瞬間は増えると思う。海外の学生と交流してみて、自分の意見をはっきりと主張し、他者の意見にも耳を傾けていたので、その姿勢が素晴らしいと思った。私はディスカッションで、自分の意見を主張することが少し苦手なので、しっかりと自分の意見を持って、主張できるようにしていきたいと思った。

最後に、この研修では、英語力の向上だけでなく、コミュニケーション能力や異文化理解能力、思考力などを養うことができた。またこの研修を通して、自分のできていないところに気づけたのもよかったと思う。この経験を活かし、これから先、英語力の更なる向上と海外で活躍できるためのスキルを伸ばしていきたい。

視野をひろげるためには

理工学部理工学科 1年 石津七海

オンライン短期留学に参加し、私はたくさんの方のことを学んだ。英語力の向上については数字をみて議論されるであろうから、この研修報告書では数字では表せられない経験について述べたいと思う。

私は、他国の人々と交流することにより己の視野を広げることこのプログラムに参加する目的としていた。他国の人々は日本とは異なる価値観をもっており、そのような人々と交流すればその価値観を知り、理解し今までとは違った視点から物事を見られるようになるのではないかとなんとも単純な考えでこのプログラムに参加したのだ。

しかし、フィリピン、デンマークの人々との交流を通しこの考えこそ己の視野の狭さを具現化していたということに気が付いた。異なる価値観を知ることはできるがそれを完璧に理解することはとても難しいのである。また、異なる価値観を知り、理解することで視野が拡張されるのではなく、異なる価値観を知り、それと比較しながら自分の価値観や固定概念を見つめなおすことで物事を多方面から見る事が可能になるのだと思った。

この考えに至るきっかけは、フィリピンの学生のある発言である。幸せであるためにお金は必要かという質問に対して彼女はこう答えたのである。

「幸せにお金は必要ではない。私は神様がいれば幸せである。」

私はこの発言にとっても驚いた。事前学習からフィリピン人にはキリスト教徒が多いことを知っていたのだ。そこで私は宗教に関する自分の価値観に初めて気が付いたのだ。八百万の神々を信じているが、常に私の思考の中に存在するものではないと。なにか辛いことがあった時の心のよりどころとなっているものであると。そして、私は彼女の考えが全く理解できなかった、が、理解したかった。そのために、私は宗教について勉強を始めた。聖書を読んだり、キリスト教に詳しい弟に話を聞いたり、神道について学んだりした。この出来事を通して、私は新しい知識を得ることができたのだ。そして、これにより私は以前の私より世の中の思想について様々な方面から意見が述べられるようになったと思う。

私はこのプログラムを通して、己の視野を広げるためには他の価値観から自分の価値観を認識し、他の価値観を理解するための勉強をしなければならないということ学んだ。将来海外で働きたいと思っている身として、この姿勢を忘れずに日々邁進していきたいと思う。

## 英語ショック

農学部生物資源科学科2年 野田真己

英語をどれくらい話せるか、知っているつもりだったのできちんと自分の能力を認識するためにこの研修に参加した。最近英語を話す機会がなくて、練習しないと感覚が鈍ってしまう気がしていた。研修スタートの日が近づくにつれ英語を話すことができるのか不安は募る一方で、アカデミックエクスプレスの勉強には手が付かない。マンツーマンレッスンで練習できるからと吹っ切れていたところもあった。留学前の複雑な気持ちと似たようなものを抱えながら迎えたこの一か月、喋れない自分のがっかりするだろうなという予想をはるかに超えて心に突き刺さるショックを受けることになってしまった。

単純な日常会話をしているのに、こんなにもどかしい気持ちになるとは思っていなかった。雰囲気伝わるとかにこにこしていればいいという次元ではない。自分の思っていることを正確に伝えるのがどれだけ難しく、伝えられないことにイライラし(irritated) 何度苦笑いでその場を乗り切っただろうか。英語を英語で学ぶこと自体に慣れていないんだ、日本の教育は本当に改革が必要だ(正直終わっている)と心の中で叫びながら。それでも担当の先生は皆、私から絞り出される単語の一つひとつにしっかりと耳を傾け、理解し、こういうことが言いたいんだよ

ねと適切な単語やフレーズを使って言い直してくださった。退屈にならないようにと先生方が毎回のレッスンで笑わせてきたのが嬉しかったし、気さくで明るい性格は私自身も笑顔にさせる。一日に何

コマもレッスンを受けて疲れ、How are you? に答えたくない時も本気で心配してきたときは申し訳なかった。先生たちのほうが毎日何時間もレッスンを担当して大変なのに。レッスンをストレスにしないでもっと気楽に捉えるようにすれば自然と笑顔になるしジョークも心から楽しめると気づいた。

フィリピンとデンマークの人たちへのインタビューは眠れなくなるくらいショックを与えるものだった。どうしてこんなにはっきり自分の意見を、理由もつけて言えるの？私はなんて子どもっぽいの、日本語ですら言えたことないくらいよと。わけのわからない質問をしたときに相手がきちんと聞き直してきたときは全く失礼に思わなかった。もっと伝わるように努力したいし、日本のコミュニティに戻っても理由をつけて意見を述べる当たり前だけどフレッシュな感動を持ち続けたい。

最後に、一緒にインタビューとプレゼンをしたグループのメンバーに心から感謝します。二人はアイデアを出したりまとめたりすべてのことをしてくれました。短い打ち合わせでここまでできたのは本当に素晴らしいと思っています。大変だったと思いますが、この研修で学んだことはこれからの人生で自分の周りに

広がる世界を変えていくと信じています。  
ありがとうございました。

### 「研修を通して学んだこと」

経済学部経済法学科 2年古川莉奈

私は、この研修を通して、フィリピンとデンマークという異なる文化や経済水準を持つ国の方と「幸せをどう定義するか」という論点で話し合い、また、GG社の提供するCLASSLIVEの英会話レッスンを受講することで、一ヶ月間、日本にいながら多くのことを学びました。その中でも、次に述べる二点が、自分の中で大きな収穫であると考えます。

まず、一点目に、価値観の相対化についてです。これまで日本で生活してきた、絶対的であると考えていた自分や自分の所属するコミュニティの価値観が、フィリピン・デンマークの方々がそれぞれ共有している価値観と比較することで、相対化されていくのが分かりました。

例えば、日本人全体に共有されがちな、お金と幸せが相関するという考え方が、世界においては普遍的ではないということです。フィリピンでは、幸せとは、家族や友人との交流や生活、自分の趣味から見出すものであるという考え方を持った人が多く、デンマークでは、税負担の大きい分、医療、教育などの社会福祉を充実させる制度に信頼を置いている人が多く、セーフティーネットがあることで、所得の大小と幸せの大小を強く結びつけて考えない傾向にあることを

学びました。

このように、「幸せ」をテーマに、自国と異なる様々な価値観を学び、比較していく過程で、自国の価値観や社会のあり方、パーソナリティなどを相対化させた結果、日本の抱える労働問題や自殺問題の原因を、日本人の家族関係、生育環境、パーソナリティや、それに起因する同調圧力という視点で考えることができたと考えます。

二点目に、英会話学習についてです。CLASSLIVEでは、マンツーマンレッスンとグループレッスンの二種類のレッスンを履修し、インプットとアウトプットをバランス良く行っていくことで、学習した単語や文法が身についていくことが感じられました。その上で、グループレッスンや、PBLを通して、相手の話を受け入れた上で、積極的に自分の主張をするといったコミュニケーションのあり方を学び、また、自分の英語がどのくらい通じかという相場観をつかむことができました。とりわけ、会話中でのリスニング力や、自分の知っている単語や文法を会話の中で使う瞬発力に、勉強不足が感じられたので、今後の課題としたいと思います。英単語や、英文法を英語で学習・説明するというやり方を学ぶことができたので、課題に取り組む上で、積極的に取り入れていきたいと思っています。

最後に、コロナ禍において、人と人との交流が制限される中、こういった形で、国際交流や、英語学習ができるように取り計らってくださった方々に心から感謝します。今回の研修を通しての収穫や、課題についてしっかりと振り返りを

行い、今後の英語学習や、国際交流に生かしていきたいと思います。

## 「プログラムを通して得たこと」

芸術地域デザイン学部

地域デザインコース 一年 工藤依沙

私がこのプログラムに参加した理由は二つある。一つ目は、長期留学に向けて英語力、特にスピーキング能力を高めるため。そして、二つ目はデンマーク・フィリピンの人との交流を通して、自分にはない考え方を学ぶためだ。このプログラムの中で自分が何を学び、どう成長したのか振り返ろうと思う。

まず、英語力についてだ。マンツーマンレッスンやグループレッスンでは、単語の意味を英語で学ぶことや現在形、過去形などの時制に加え、助詞、過去分詞などの言葉を英語で説明することが求められた。今まで英語で英語を学ぶ経験がなく、最初は戸惑ったが、この経験のおかげで、今までわからなかった英語の微妙な意味合いを理解することができるようになった。私は日本語よりも英語で学んだほうが頭に入りやすかったため、自分に合った勉強方法を見つけることができたと思う。

スピーキング能力に関して言えば、以前より自信を持って英語を話せるようになったと感じる。このプログラムを受ける前は、発音や文法を気にしすぎて、なかなか英語を話すことができなかった。しかし、レッスンをこなしていくうちに、発音や文法に関する不安よりも、疑問点を解消したいという思いが強くなっていった。その結果、単語や文法に関してわからない点があったときにすぐに質問したり、

自分から話しはじめたりすることができ、英語を話すことに対する抵抗がなくなっていった。

次に、デンマーク・フィリピンの人との交流を通して学んだことについてだ。学んだことは二つある。一つ目は、日頃から物事に関心を持ち、自分の意見を考えることだ。インタビューを行った際、どちらの国の人も堂々と自分の意見を言っていた。これは、日頃から物事に関心を持ち、自分の意見を考える習慣がついているからできることだと思う。私は今まで、自分の考えを深く掘り下げることを避けていたため、自分の意見に自信が持てなかった。そのため、質問が来ても自分の考えがまとまらず、上手く説明することができなかった。この経験から、考える習慣は大切だと学び、小さなことでも自分の意見を言えるように習慣化していこうと思った。

二つ目は、コミュニケーションをとる姿勢の大切さだ。例えば、英語で言いたいことが伝えられないときに、黙ってしまうと会話が止まってしまう。そこで、会話を終わらせてしまうのではなく、ジェスチャーや表情を使ってなんとか伝えようとする、相手はなんとなく理解してくれる。そのような相手と話したいと思う積極的な姿勢を持つことが、円滑なコミュニケーションにつながることを学んだ。また、聞き手としてのコミュニケーションの取り方も学ぶことができた。講師の方は、私の拙い英語をなんとか理解しようとしてくれたり、私が言葉に詰まっても全て話すまで待ってくれたりした。このような彼らの心遣いのおかげで、英語

を離さなければならないというプレッシャーから解放され、英語での会話を心から楽しむことができた。このことから、話し手が話しやすいと感じる環境づくりを意識することが、みんなが会話を楽しむ上で重要なことだと気づいた。

英語を勉強し、学ぶ場の規模を広げることは、自分の考えを異なる側面から見ることにつながる。今回のオンラインプログラムで、デンマークやフィリピンの人々との交流を通して、自分の当たり前が当たり前ではなく、日本に住んでいることによって形成される考えなのだと自覚することができた。これから先、答えのない問題がたくさん出てくると思うが、このプログラムで学んだ考える力と伝える力を伸ばして、自分なりの答えを導き出していきたい。

研修を通して得たこと

農学部

生物資源科学科生物科学コース

19254136 山香美優

私はこの研修で様々なことを学び、得ることができた。このプログラムでは主に2つの活動をした。1つ目はフィリピンの先生とのマンツーマンレッスンやグループレッスンを受けたこと、2つ目はフィリピンやデンマークの方々と幸せについてのディスカッションを行った。これらを通して学んだことを「レッスンを通して」と「ディスカッションを通して」の2つに分けて述べていく。

「レッスンを通して」

レッスンはインプットを主としたマンツーマンレッスンとアウトプットを主としたグループレッスンに分けられており、効率よく学習できた。このレッスンでは、単語力、文法力、スピーキング力、リスニング力全て高めることが出来たと思う。単語力では意味を英語で学ぶことで類義語や対義語も含めて知ることができた。文法力では、文法自体は中学や高校で学んだものがほとんどで知っていたものばかりであったが、英語で学習することでwillとbe going toの違いなど英語のニュアンスについて知ることができ、最後の方にはそれらの違いを英語で説明できるようになっていた。スピーキング力では、最初は緊張や正確に喋らないといけないという思いもあって、英語がなかなか出てこず、先生の質問にもあまり答えることができなかった。しか

し、先生方が優しく、答えるのに時間がかかっても英語が出てくるまで待っていてくれたり、つたない英語でも理解しようとしてくれたおかげで「自分の英語でも伝わるのだ」と自分の英語力に自信を持てるようになった。また、自分が話した後に間違えている文構造やよりよい単語表現を教えてもらうことで、この時はこう言えばいいのだなというのをたくさん学ぶことが出来た。英語力以外でも、自分の意見をしっかりと持って伝えることが大切だと学んだ。その意見が人と違っても恥ずかしくないし、むしろ色々な意見が挙がったほうが色々な考え方を知ることができて楽しかった。

「ディスカッションを通して」

ディスカッションでは、同じグループの友達と幸せについて話し合ったり、フィリピンやデンマークの学生に幸せに関する質問をしたりして、幸せについて考えた。この質問を通して、デンマークとフィリピンの幸せのキーポイントを知ることができた。デンマークは誰にでも学ぶ機会が与えられていたり、健康を保つことができるようなしっかりとした社会制度やルックという考え方により、個々を尊重し合い、人々の信頼度が高いことが幸せにつながっているのだと分かった。フィリピンの人々はポジティブで寛容な人が多く、日常の中の小さな幸せに気づいてそれに感謝していることや家族を大切にしていることが幸せにつながっているのだと思った。幸せの価値観は個人によって違うとは思いますが国ごとの大きなくくりで見ると、やはりそれぞれの国の特徴があり、文化やその国の社会制度が大

きく関わっていることが分かった。  
このように、多くのことを学ぶことができ、実際に現地に行ったわけではないがとても満足できた留学だった。この留学で学んだことをこれから活かして、より幸せな人生を自分で作っていったらなと思う。

## 研修からの学び

農学部生命機能科学科

2年 山西翔子

私が Class Live デンマーク・フィリピン課題解決プログラムに参加することを決意した理由は、英語力の向上とともに国によっての幸せについての考え方の違いを知りたいと思ったからです。しかし、私は自分のスピーキング力に自信が無く研修に申し込む際に、幸せについてという漠然とした難しい内容について英語で話せるのかという不安がありました。この不安を乗り越えて研修に参加することを決意した過去の自分に感謝するとともに、研修を通してどのように自分に変化があったか、何を学んだのかについて紹介したいと思います。

Class Live の授業は、マンツーマンレッスンとグループレッスンの2つの授業形態があり、どちらにおいてもスピーキング力、リスニング力、また会話の内容に瞬時に反応するための会話の瞬発力が非常に鍛えられました。会話の中では次にどのような話題が来るか、どのような質問が来るかを前もって知ることはできないため、瞬時に自分の考えをまとめて話す必要がありますが、私にはこの力が全く足りていませんでした。フィリピンやデンマークの方々はいきなり来る質問に対して、的確に自信をもって話されており、その堂々とした姿が非常に印象的でした。自分に足りない力は何なのか。始めは、英語力の違いによるものだと思っていました。しかし英語ではなく日本

語であれば自分の意見をはっきりと話すことができたのだろうかと考えたとき、自分に足りないものは英語力だけではないと感じました。この研修で学んだことの一つは、周りのことに興味・関心を持つことの重要さです。日頃から様々なことに興味を持ち、情報収集をすることで自分の考えを持つことができ、そこで初めて話し合いのスタートに立つことができる。これは英会話だけでなく全てのコミュニケーションの場において必要とされると思います。今後の話し合いをよりよいものにするために意識して身に付けていきたいと思いました。

研修を通して学んだことの二つ目は、ポジティブになるために自分の苦手なことにできるだけ挑戦することです。PBLでのインタビューでは、デンマーク・フィリピン両方の方々が、ポジティブ思考の大切さを教えてくださいました。ポジティブになるためには自分に少しでも自信をつけることが必要だと思います。やってみようかなと少しでも迷ったとき、それが自分の苦手な分野であっても、挑戦し経験することで自分に自信が着くと思います。授業の始めのうちは、自分の英語に自信が持てず、できるだけ失敗ないように、表現できる範囲のことだけを英語で伝えようとしていました。しかし、フィリピンの先生方と親しくなり始めると、それまで話していた内容以上にもっと深い話をしたいと考えるようになり、自分が表現できる範囲を超えて会話を続けていくために、話したい話題に関する単語、構文を事前に調べるようになりました。何度も先生方の前で間違いを

繰り返し、あまりに間違い過ぎたせいか途中から恥ずかしさが薄れ、英語を学ぶ意欲も上がったように感じます。始めは英語力を向上させることを目的に英会話の授業を受けていましたが、いつの間にかもっと多くのことを話したいという思いから積極的に英語学習に励むようになったと思います。

この研修を通して、ここに書ききれないほど多くのことを学びました。また、世界に目を向けて話し合いをする中で他の国の人々の良さはもちろん、日本人の良さについても改めて考えるきっかけになりました。この研修に参加できたことに本当に感謝しています。ありがとうございました。

オンライン留学を終えて

農学部生物資源科学科 小田瑞穂

コロナウイルス感染拡大により、私たち大学生は様々な制限を強いられています。私の大学生活の目標の一つでもあった留学もまた、コロナウイルスによって実現不可能なものになっていました。このような状況の中で、私たち大学生に留学という機会をくださった先生方にまことに感謝しています。

オンライン留学は英語学習と PBL と呼ばれる幸せについてディスカッションする二つのセクションに分かれていました。英語学習はマンツーマンレッスン、グループレッスンに分かれており、毎回様々なフィリピン人の先生方とお話しできました。マンツーマンレッスンでは 30 分つきっきりで英語を教えてもらい、時々脱線する雑談が何よりの楽しみでした。また、その雑談が、英語を使っているという自信と実感を与えてくれるものであり、英語を“使う”力を養うことができました。グループレッスンでは自分自身が英語を使う時間は少ないものの、レッスンメイトの考え、年齢、能力など触発されるものがたくさんありました。また、ゲームなどを開催してくださる先生もいて楽しみながら学習することができました。(3レッスン連続罰ゲームで歌を歌ったのが一番の思い出です) クラスライブでの英語学習は文法力や語彙力はもちろん、コミュニケーション能力や協調性の成長を助けてくれるものでした。

PBL は授業だけでなく、私たちが主体となってフィリピンとデンマークの方々に

インタビューを行ったり、日本人の中でディスカッションをしたりしました。フィリピンの先生方とは円滑なコミュニケーションがとれるようになり、自信が付いてきた私はインタビューを楽しみにしていました。ですが、聞き取れない、通じない、話すことがない、というオンライン留学の中で自分の英語が最も不自由だった地獄の二時間となってしまいました。このインタビューは私にとっては一番難しく、悔いが残ったところでしたが、自分の意思をくみ取ってくれるクラスライブの先生方だけではこの事実気づけないままであったと思うと一番の経験だったと思います。また、何気に大変だったのが日本人同士でのプレゼン作りです。直接会って作るができなかったので今までとは違う作り方でやらざるを得ませんでした。慣れない中で全員の意見をすり合わせていくことは難しくもありましたが、全員が自分の意見を持っているという証拠かなと思いました。

オンライン留学を受けて私は英語能力が上がりました。ですが、英語能力以上に得られるものがたくさんありました。特に、コロナを理由にはいけないということに気づくことができよかったです。できない中で工夫をし、自分の経験にしていく大切さを留学の機会を与えられたこと、留学で得られた成果できづくことができました。

研修を通して学んだこと

農学部 生物資源環境学科

3年 光武早紀

私がこのオンライン留学に参加しようと思った理由は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響でやりたかったことができなくて落ち込んでばかりいた時に、このプログラムを知り、これに参加することが今の自分ができる最も有意義な経験だと思ったからだ。

私がこの約1か月のオンライン留学で一番得たことは、自分に自信を持って発言ができるようになったことだと思う。私自身、研修に参加する前のグループ活動では、今まで積極的に発言をすることがあまり無く、自分の意見なんて求められていないだろうと思っていた。そんな自分を変えたいと思いながらもなかなか行動に移すことができずにいた。しかしこのプログラムを通して自分の中で変化を感じられたことが多々あった。自分の意見を毎回の授業で求められ、更にそれを英語で話さなければならない今回のプログラムでは、始めの方はうまく話せるか、講義の流れを遮ってしまわないか不安で緊張して講義に臨んでいた。しかしそんな不安は、授業の明るい雰囲気や先生方の優しいフォロー、自分が意見をした時の周りの肯定的な反応などで次第に薄れていき、いつの間にか楽しんでレッスンを受けるようになっていた。グループレッスンではその日の学習内容の他、自由に質問ができる時間を設けてくれる先生もいて、お互いの国の文化について

質問しあったり、悩み相談をしあったりすることもあった。何度か一緒になった学生とは直接会ったことが無くても親しくなれてとても嬉しかった。また、グループレッスンでは時に意見が対立することもあったが、自分の意見を強く持ち、「私はこう思う。」と堂々と意見するメンバーにとっても刺激を受け、自分もそうなりたと思った。自分が積極的に参加するからこそ感じられる楽しさや人と意見を交換することの楽しさを改めて知ることができた。

また、今回のプログラムでは、「幸せとは何か。」というテーマについても考えた。デンマーク、フィリピンの方々とのディスカッションを通して、国の制度、文化や価値観の違いにより、幸せについての考え方に違いが生じることを知った。しかし、それと同時に、幸せを感じる瞬間や、家族や友人の存在を大切にしていることは共通なのだと知った。大好きなアーティストの音楽を聴いている時、好きな本を読んでいる時、美味しいものを食べている時に幸せを感じるということや、自分が自分らしくいることができ、本音を言い合える家族や友人の存在は貴重であり、彼らと過ごす時間はかけがえのないものであるということだ。新型コロナウイルス感染拡大により家族や友人と会うことが制限され、改めて彼らの存在の大きさを感じたということを知り、「幸せ」は身近にあり、その「幸せ」に気づくことで、より幸せを感じられるのかなと思った。

最後に、オンラインという形ではあったが留学をし、沢山の先生方や留学生、一

緒に授業を受けた日本人学生と出会い、交流することができたのは本当に良い経験になったと思う。語学力のみならず、様々な点で自分の成長を感じることができ、もっと色々なことに挑戦したいという意欲が沸いた。海外への渡航が可能になれば現地で学びたいという思いも強くなったし、これから何事にも積極的な姿勢で取り組んでいきたいと思った。

コロナと英語プログラムについて

芸術地域デザイン学部地域デザインコース  
2年生 高桑 正誠

今回、Class Live プログラムに私が感じたことはコロナ禍における国際交流の在り方と海外留学に対する思考の変化だ。以前、私は大学2年次に海外へ短期留学をしたいと考えていたが、不運にもコロナ禍によってその機会が失われた。その一方でこのプログラムのような貴重な機会をいただき、私自身、初となるオンラインでの留学プログラムを受講することとなった。最終的に私はこのプログラムを受講して良かったと思う。私がオンライン英語プログラムに感じるメリットは2点ある。

1つ目は複数の国籍の人と交流できる点だ。もし海外留学に行けば、留学先の国や文化については深く学ぶことができるが、今回の課題解決プログラムテーマである「幸せとは何か？」と言ったような世界各国に共通するテーマへの異なる価値観を知ることは難しいだろう。その点においてオンライン英語プログラムは複数の国の人と気軽にディスカッションできると私は感じた。2つ目は普段の生活に支障なく英語を学ぶことができるということだ。従来海外留学では時間的、空間的な制約がつきものであった。しかしオンライン英語プログラムであれば自身の普段の生活の中で問題なくできるという利点がある。

当然、オンライン留学のデメリットも存在する。例えばインターネットの回線問

題だ。インターネットの回線環境が脆弱な時はオンライン授業を満足して受講することが困難であった。しかし、このようなハード面の問題は次世代通信規格5G、や6Gなどの技術的進歩によって改善されていくと私は思う。

このようにオンライン英語プログラムはコロナ禍において英語をより実践的に勉強したいと考えている学生にとって救世主のような存在である。そしてこのオンライン形式が1つの語学留学の方法として今後注目を浴びていくだろう。私もこの世界的な感染爆発が収束した後に国内外で英語を生かして活躍できるように勉学に励んでいく所存だ。

## 研修を通じて学んだこと

日南瑠

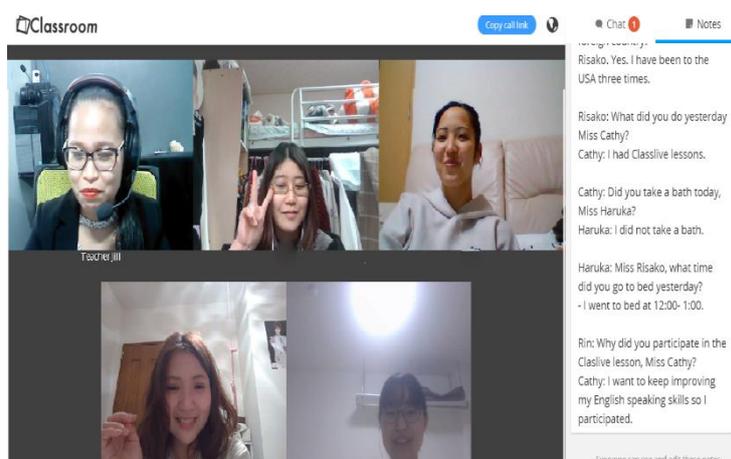
Classlive のレッスンとフィリピン・デンマークの学生との交流のそれぞれについて振り返り、学んだことや感じたことについて述べたいと思います。まず、Classlive のレッスンについてですがレッスンを終えて感じたことが二つあります。一つ目は、英語でコミュニケーションをとるときには語彙力、発音、文法がとても大切であるということです。実際にレッスンでは、ユニットごとのいくつかの質問について自分の考えを聞かれましたが、日本語では考えが固まってもそれを英語で伝えるときになかなか良い単語が思い浮かばず苦戦する場面がありました。そのときにより多くの単語を知っていることがいかに大切であるかを痛感しました。また、単語の意味を英語で説明することも多々ありましたが、いつもは日本語で意味を解釈していたため難しく感じました。ですが、単語の意味を英語で説明できると、その単語がすぐに思い浮かばなかったとしても言い変えて伝えられるようになると思うので、表現の幅を広げるためにもこれからは英語で単語と意味を結びつける練習をしたいと思いました。また、発音が正しいと相手が理解しやすく誤解が生まれることも減り、効果的に自分の意見を伝えられると感じたため、日頃から英語のリスニングやシャドーイングなどに取り組み、より正確な発音を身につけるようにしたいと思いました。さらに、Classlive のレッスンでは文

法についても細かく学ぶことができました。日本語では同じような意味合いでも英語では表現によってニュアンスに違いが出てくることが分かり、文法を正確に学ぶことも円滑にコミュニケーションを進めることに繋がると実感しました。二つ目は、失敗を恐れずに積極的に発言することが重要だということです。先に述べたように語彙力や発音、文法も大切ですが、相手に上手く伝わらなくても何かを伝えようと失敗を恐れずにチャレンジする心が大切であると実感しました。実際にレッスンで、自分の言いたいことが決まっても英語で表現ができずもどかしい思いをする場面がたくさんありましたが、そのときに何とか知っている単語をつなぎ合わせて近いニュアンスを伝えたと先生が理解して上手く言い換えてくださったので失敗を怖がらず頑張って伝えようとする気持ちが重要だと感じました。その場で自分の意見を考えてそれを英語で述べることは難しかったですが、回数を重ねるごとに自分が言いたいことを少しでも多く伝えたいという気持ちに変わっていったため積極性も同時に身につけることができました。

次に、フィリピン・デンマークの学生との交流を終えて感じたことが二つあります。まず一つ目は各国の幸せの感じ方についてです。日本とフィリピン、デンマークはそれぞれ文化、政治体制も経済状況も異なり、幸せに対する考え方にも違いが見られましたが、どういうときに幸せを感じるか、何をしたら幸せを感じられるかなどについては共通点もありました。ですが、幸福度ランキングを見ると各国

には差があります。交流の中でもランキングに差があるのはなぜか、そして日本はランキングをあげることができるのかといった内容について考えましたが、私はやはり個人の幸せの感じ方が最も影響していると思います。政治体制や教育、経済状況なども重要ですが、最終的に幸せかそうではないかを判断できるのは各個人だと思うので、自分の日常の中で幸せを探したり、誰かと共にいることを幸せであると認識したり、笑顔を意識したりすることでより多くの人々が幸せを感じられるのではないかと考えます。しかし、幸せのように形のないものははっきり定義することは難しく、人によって考え方は様々であるため、今回の交流で新たな発見がたくさんあったように様々な人と意見を交換して自分の視野や考え方を広げていくことが大切であると思いました。二つ目は英語でのディスカッションについてです。二つの国の学生との交流を終えてリスニング力とスピーキング力がまだまだ足りないと感じました。そして、みんなの意見を聞きつつ常に自分の意見を持って参加することが重要であると学びました。今回の交流を通して自分の英語力をさらに高め、もっと自由自在に意見交換ができるようになりたいと感じたため日々努力を重ねていきたいです。

最後になりましたが、一ヶ月間で多くのことを学ぶことができました。支えて下さった皆様、グループの皆様に感謝しています。ありがとうございました。



## 研修を通して感じたこと

農学部一年 平川紗季

私がこのプログラムに参加した主な理由は、海外の人と交流して自分の視野をもっと広げたくかったからです。コロナウイルスの影響で海外はもちろん、国内でも外出自粛を求められる状況の中で、外出することなく海外の人とコミュニケーションがとれて自分の英語力をのばす良い機会になるこのプログラムは参加するしかないと思いました。研修の内容は約1か月間ClassLiveで毎日マンツーマンレッスンとグループレッスを2レッスンずつ受けて基本的な英会話力をのばし、フィリピンとデンマークの学生それぞれと幸せについて3回ずつディスカッションを行うというものでした。私はもともと自分の意見をはっきりと人に言うのが苦手で、さらに英語で話すことにも慣れていなかったので、はじめの方は質問されても上手く答えられなかったり、YesやNoで終わらせてしまうことが多々ありました。しかし、ClassLiveの先生方が私の答えに対して深掘してくれたり、私が発言するのをゆっくり待っていてくれたり、フィリピンやデンマークの学生さんたちも私の意見に対してしっかりと聞いてくれたので、プログラムの最後の方には自分の意見をはっきりと言うことができるようになっていました。これはこの研修に参加したからこそ得られたものだと思います。しかし、「幸せ」という概念的なものについて英語で会話するのは正直難しかったというのが本音です。

海外の人とより深い会話ができるようになるには日ごろから周りのことに意識を持ち、常に自分の意見を持ち続けることが大切だと感じさせられました。

今回の研修を通して、改めて異国の人とコミュニケーションをとることの楽しさを感じることができました。次は実際に現地へ留学し、たくさんの文化の異なった人とそれぞれの文化の違いや幸せについて議論してみたいと思いました。

## プログラムの感想

経済学部経済学科 2年 東優花

私が今回 SUSAP フィリピン・デンマーク研修に参加しようと思った理由は、コロナ禍でも留学をするという目標を諦めきれなかった事と今自分にできることをしたいと思ったからです。この研修を通して英語を学ぶことや異なる国の人と話すことの楽しさ、幸せについて、私たちがすべき事など多くのことを学びました。オンラインでの留学なので不安な点も多かったのですが本当に参加してよかったと思います。レッスンは25分の個人レッスンと50分のグループレッスンが40コマずつあり、自分の好きな時間に受講することができバイトとの兼ね合いもしやすかったので負担にならなかったです。

私は昔英会話を習っており、筆記は得意だと自分で思っていたのでうまく話せるだろうと思っていましたが、実際に先生と話してみると全然聞き取れず、うまく会話ができなかったり、自分の伝えたい事を相手にどう伝えてよいかわからず初日で心が折れてしまいました。グループレッスンで同世代の人がスラスラと英語を話しているのを見て私も毎日英語を勉強しました。勉強するにつれて、先生の言っていることが理解できるようになりました。先生も発音を注意してくださったり、正解したら褒めてくださりとてもサポートをしてくださいました。自分の成長を感じるともっと話せるようになりたい！と向上心も湧いてきました。また私は大勢の前で何かを発言することが苦手な極力避けて生きてきました。今

回の研修ではそこを克服することも目標にしていたので、レッスンでは自分から発言をしたり、間違えていても自分の意見を伝えるようにしました。この4週間で少しは自分に自信がついたと思います。

幸せについてデンマーク、フィリピンの学生と交流したときは、やはり国によって考え方や習慣、政治、経済状況は大きく異なることを身を持って実感しました。私は交流するまでは幸せに必要なものはお金や裕福な暮らし、発展した経済だと思っていました。ですが幸福度ランキングでは発展途上国のフィリピンが日本より上位でとても疑問に思いました。フィリピン、デンマークの学生から幸せになるには自分ひとりの力ではなく、周りの人々によってなるということ学びました。勿論、政府のサポートや健康状態、国の発展度合など様々な要素もありますが、その人の考え方や意識が重要であると思いました。ですが幸せとは何か？という問いは私の中ではまだ答えは出ていません。これからも幸せとは何かを考えてより多くの人が幸せになれたらいいなと思いました。

今回のプログラムを通してフィリピン・デンマークの良いところをたくさん知ることができました。ネットの情報ではなく現地のひとの意見を聞くということはとても貴重な経験になりました。また逆に日本のいいところも改めて実感できた機会になりました。今後も様々な国の人と交流をし、日本の良さを伝え他国の良さを知りたいと思いました。

今回の留学は私をとっても成長させてくれた貴重な体験でした。

## 「幸せとは」に対する答え

理工学部機能物質化学科 宮石康大

私は2021年2月22日から3月19日にかけて、デンマーク&フィリピン Class Live プログラムに参加しました。内容としては、一日にオンライン上で25分の個人レッスンを2つと50分のグループレッスを2つ受講するというものでした。コロナ禍により、海外はもとより国内旅行さえ憚れる状況ですが、このプログラムは家で受講でき安全、かつ講師の方々はオンラインでも十分な満足感を提供できるよう創意工夫をしてくださっていますので、非常に良いプログラムであると感じました。一方で私はいふと、就職活動とオンライン留学の二足の草鞋の生活をしてきた影響で、受講が遅れるなど先生方には迷惑を掛けてしまう時もありました。しかし、寛大な先生方とClass Live様の支援のおかげで、無事受講を終えることが出来ました。もし長期休暇中、「英語の他にもやりたいことがあるが、留学も体験したい」と思っている方がいらっしやいましたら、オンライン留学は最適であると考えます。もちろん努力することは前提ですが、英語が好きで熱心なあなたならば、十分に両立でき、どんな状況であっても、充実した休暇を過ごせるのではないかと思います。

オンライン留学を終えて、一番の収穫は「英語を話す自信がついた」ことです。自分の喋る英語が伝わること、会話のキャッチボールが出来ることを体験し、話す“自信”が出来ました。それにより恥ずかしながら伝えようとする努力が出来ようになりました。

この収穫はSUSAPならではのだと思います。このプログラムのように短期集中的に受講しますと、毎日の生活の中に英語が組み込まれますし、先生とも仲良くなるのが出来て、自信をつけるにはより効果的なのかなと思いました。

実際にデンマークの方々と交流してみて、確かに彼らは様々な側面で恵まれていることは間違い無いのですが、それ以上に彼ら自身が「幸せ」という概念的で難しい問題に向き合い、それぞれの意見を持っていることに特徴があると感じました。

フィリピンの方々と交流してみて、彼らは“衣食住”に関する問題を抱えており、物質的に日本より貧しい国であると実感しました。しかし私は、彼らは幸せを見つけることに長けていると感じました。彼らに「あなたにとって一番重要なことは？」と尋ねると「家族」と即答してくれました。これは簡単なようで難しい、私は家族がいることは当たり前すぎて、幸せとは結びつかないと考えがちです。しかし彼らは、身近な青い鳥を見つけ愛でることが出来ます。そういった意味で、フィリピンは精神的に日本より豊かな国であると思います。

オンライン留学プログラムを終えた、私の幸せの結論としては、「幸せを生かすも殺すも自分次第」ということです。大事なものは自ら幸せを見つけ、実感することだと思います。フィリピンとデンマーク、そして日本の幸せについての違いは、すべてここに集約されると思います。逆に言えば、これを実践すれば、我々はすぐにでも幸せになれるということです。このプログラムを通して学んだことを、これからの人生でも大切にしていきたいと思っています。

